

## 平成 25 年 10 月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成 25 年 10 月 31 日(木) 午前 10 時 00 分
- 2 場 所 市庁本館 3 階 議会第 1 委員会室
- 3 委員氏名
- |          |         |
|----------|---------|
| 委員長      | 武 輪 節 子 |
| 委員長職務代行者 | 築 瀬 眞知雄 |
| 委員       | 岡 本 潤 子 |
| 委員       | 大 庭 文 武 |
| 教育長      | 伊 藤 博 章 |
- 4 職員氏名
- |              |              |
|--------------|--------------|
| 教育部長         | 佐 藤 浩 志      |
| 是川縄文館長       | 小 林 和 彦 (欠席) |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 澤 田 多嘉男      |
| 教育部次長        | 嶋 脇 郁 夫      |
| 図書館長         | 津取場 重 行      |
| 学校教育課長       | 齋 藤 信 哉      |
| 教育指導課長       | 正部家 光 彦      |
| 社会教育課長       | 船 田 泰 寛      |
| 是川縄文館副館長     | 前 田 美智子      |
| 総合教育センター所長   | 井 上 貫 之      |
| 博物館副館長       | 小笠原 善 範      |
| 北地区給食センター所長  | 中 里 親 弘      |
| 東地区給食センター所長  | 板 橋 稔        |
| 西地区給食センター所長  | 清 川 彦 一      |
| 市史編纂室長       | 藤 田 俊 雄      |
| 教育総務課参事      | 尾 崎 雅 祥      |
| 社会教育課参事      | 田 中 勉        |
| 教育総務課副参事     | 小笠原 光 則      |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正 樹

武輪委員長	<p>ただいまから、平成 25 年 10 月の教育委員会定例会を開会いたします。</p> <p>10 月 1 日より委員長を務めることになりました武輪でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。また、同じく 10 月 1 日より大庭委員さんが新たに教育委員に任命され、本日が最初の定例会となりますので、大庭委員さんから一言ご挨拶をいただきたいと思ひます。</p>
大庭委員	<p>今、紹介をいただきました、10 月 1 日付けで教育委員に就任しました大庭文武と申します。よろしくお願いいいたします。</p> <p>私はずっと高校に在職でしたので、義務教育という形で教育に関わるのは初めてでございます。いろいろ資料をいただきながら勉強中であり、若葉マークの状態でございます。ただ、幼小中、さらに今は高校にもほとんどの生徒が進学しますので、幼小中、さらには高校との接続、あるいは大学、社会人になってからの八戸の子どもたちというふうな視点を持ちながら、子どもたちの育成に関わっていければと思っております。よろしくお願いいいたします。</p>
武輪委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>(委員長挨拶)</p>
武輪委員長	<p>それでは、本日の議事録署名は岡本委員を指定いたします。</p> <p>では教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いします。</p>
伊藤教育長	<p>(資料に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
武輪委員長	<p>それでは、これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。はじめに、議案第 52 号「八戸市公民館条例の一部を改正する条例の制定について」事務局からの説明をお願いいいたします。</p>
船田社会教育課長	<p>(議案第 52 号「八戸市公民館条例の一部を改正する条例の制定について」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいま議案について説明がありましたが、ご意見・ご質問がありましたらお</p>

	<p>願います。</p> <p>(質疑なし)</p>
武輪委員長	<p>それでは、議案第 52 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
武輪委員長	<p>ご異議がありませんので、議案第 52 号を原案のとおり決定いたします。</p>
武輪委員長	<p>次に、議案第 53 号「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
澤田次長兼 教育総務課長	<p>(議案第 53 号「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいま議案について説明がありましたが、ご意見・ご質問などがありましたらお願いいたします。</p>
岡本委員	<p>たぶん言い間違いだと思うんですけども、グループリーダーという言葉が聞こえましたがワーキングですよね。</p>
澤田次長兼 教育総務課長	<p>すみません。その通りでございます。</p>
武輪委員長	<p>他にございませんでしょうか。</p>
岡本委員	<p>意見ではなく感想ですけども、今 6 年目だということをお聞きしまして、私も一番最初の頃から携わっているかと思うんですけども、いろいろ試行錯誤しながら他都市の例を見ながら、どのような形態が良いかということについては、この 6 年間で議論してきたことであり、だいぶ見やすくなりましたし、市民の皆様にとってもはっきり分かりやすいものに少しずつ近づきつつあると感じております。</p> <p>またこれをするにあたりまして、大変大きな労力をかけているということも事実でございますし、これをしなければならぬということが大前提ですので、失くす訳には参りませんことですし、評価ということは何の社会でもしていることですので、丁寧に、ここが市民の皆様と繋がりやすい部分かもしれないなど最近</p>

	<p>思っております。ですから皆様にお出しするにあたって、できるだけ分かりやすい言葉でということや、去年とどう違っているのかということをもっと具体的に出すことができるように、またこれによっても教育委員会のしていることが皆様にご覧いただけるような内容に来年度はまた少し形態が変わることを期待しながら、これを是非市民の皆様にもよく見ていただきながら、教育に対する理解を深めていただければいいかなと思っております。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>ありがとうございます。私も教育委員に携わって年数は少ないのですが、この資料を一つ読むだけでも大変な時間がかかり、私たちが読むだけでも時間がかかるということはこれを作成する方々はもっと時間をかけていただき、更にはその内容についてやっていることというのは大変なことだと思っております。これを開示されて、市民の方々から質問などが今まであったかどうかは分かりかねますが、やはり市民の皆様幅広く丁寧に説明していくというふうにこれからも努力をしていきたいと思っております。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>それでは、議案第 53 号を原案の通り決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>ご異議がございませんので、議案第 53 号を原案のとおり決定いたします。</p> <p>なお、議案の説明にもありましたが、当該報告書については市議会に対して 12 月市議会定例会開会日に報告するとともに、同日付で公表する予定となっております。出席者におかれましては 12 月市議会開会日までの間、当該報告書の取り扱いには十分ご注意くださいようお願いいたします。また、報道関係者各位におかれましても、報告書の取り扱いについてはご配慮いただきますようお願いいたします。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>以上で議案の審議は終わりました。</p> <p>次に報告事項に参ります。はじめに、「平成 25 年度第 2 四半期の業務報告について」は事前に資料が配布されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたらお願いいたします。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>業務報告の中で 3 点ぐらい、4 月以来続けて感想とか質問しているところについて、その経緯をたどりながら少しお話ししたいと思うところがあります。</p> <p>5 ページ目の教育指導課の事業で 6 番を中心になんですが、5 番とも少し関連します。スタディサポーター事業の 1 番下の項目です。専門指導員の活用状況というところですが、そこに書かれているのは今年度新規の事業であった、特別支</p>

<p>正部家教育指導課長</p>	<p>援体制整備事業という整備事業の中で教育指導課に配置された3人の専門指導員の活用状況ということでよろしいですね。確認したいです。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>はい。</p> <p>ということであれば前にもお話ししたんですが、ここにも書いてあるように幼稚園・保育園の巡回相談とか、教育相談が増加してきていると述べられています。また、先日担当者の方からお聞きしたところによれば、これまで各学校の特別支援担当の先生方が学校や幼稚園、保育園に出掛けて相談を受けたり、あるいは検査分析を行っていたところを、今年度配置された専門指導員の方が、いわゆる各学校の特別支援学級の担当教員が行っていたものも業務でしてくれるという説明を聞いておまして、とても良いなと思いました。というのは、ご存じのように特別支援学級の担任の先生は1対1で関わったり、非常に指導が大変な訳です。もちろん通常学級の先生方もそうなんですが、その特別支援学級の先生が、授業が終わってから、他の学校とか保育園とか幼稚園に出掛けて行ったりしているんですが、教材研究なんかもできなくなったりしています。そういう時間が専門指導員の方が出掛けてくれることによって確保されると。そういった面で子どもたちにとっても、特別支援学級の先生方にとっても、とても良い機会になったのではないかと思います。</p> <p>4月、7月にもこのことについては触れたんですが、4月の定例会のときに嶋脇次長さんから、このことについては最初は各学校の情報収集に努めながら、総合教育センターの「うみねこ」などと連携して、ジワリジワリと進めていきたいというのが印象に残っていたんですけど、そのジワリジワリという効果が非常に効いてきたなという印象を受けておりました。こういった幼稚園、保育園を含めた現場では、子どもたちの支援に関する要望が一層強くなっていると思うんです。ですから、こういったことで非常に効果があって、成果も上がっているなと思います。</p> <p>それで要望ですが、やはりこういった事業については、5番の特別支援教育アシスト事業とも関連するんですけども、是非今後ともこういった専門指導員とか、特別支援アシスタント、スタディサポーターといった人的配置の充実拡大については、できる限り要望していただきたいと思います。</p> <p>7月の定例会でも述べたんですが、実際に私たちが学校訪問に時々同行させていただいて、この効果は直に感じるができるんです。そういう方々が指導主事の方と一緒に行って、授業参観して、あとでいろいろな助言をしたり子どもさんのことについて話し合ったりということで、非常に効果が上がっていると思います。特別支援学級の先生方が全員ベテランという訳でもありませんので、そういった意味で非常に心強いのではないかなと思います。ですから、こういったこ</p>

<p>正部家教育指導課長</p>	<p>とは是非その成果を、今言ったように直に現場で見た成果とか、現場で上がっている声、こういったものを一つの説得材料にして、予算要求に活かしていただきたいと思っていますところです。それが要望です。このことについては何か教育指導課ではありますでしょうか。</p> <p>今お話しいただいたように、やはり学校現場とすれば、そういう手厚いより専門性の高い、あるいは子どものすぐそばについてくれるというような事業が必要であるということで、更に人的配置の充実を図っていきたいと思っています。スタディサポーター事業は今40名、後期には4名を加えまして44名。ただし、これは震災対応事業ということで、今年度で打ち切りということですので、人事あるいは財政のほうに、今おっしゃっていただいたように一般財源のほうでということ強くお願いをしていきたいと思っています。</p> <p>それから専門指導員につきましても、活用状況は猫の手も借りたいくらいに出ていますので、3人から更に5人ということで要望を考えております。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>是非頑張ってくださいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>あと11ページの総合教育センターの4番のところで、教育の情報化推進事業というのがありまして、この3つ目のところに、中学校の整備が十分とは言えないかもしれませんが、基本線に関してはほぼ完了したということが載っております。それから下から2つ目のところには、小中学校に整備されたプロジェクタ及び実物投影機の活用推進を行ったという成果が載っております。</p> <p>先程も述べましたが、私も学校訪問に同行させていただいて感じていることの一つに、ほとんどと言えば語弊があるんですが、数多くの授業でこの実物投影機が手軽に、本当に一つの教材として活用されているということを感じておりました。設置だけではなくて活用することが大事なので、そういった面では非常に設置したかいいがあるといったことを感じておりました。更にそれを投影して、授業に興味関心を抱かせるということでも非常に効果があると思っています。これが大きく言えば「わかった！できた！が実感できる授業づくり」といったことに直接結びつくのではないかと感じていました。これが設置されたと同時に、活用されているというのが成果であるなと思っています。</p> <p>ただ少し気になるのは、例えば私が行って見た授業がそうだったというのではなくて、一般的に言って、実物投影機とかコンピュータとかそういう教育機器、情報機器を使えば、良い授業なんだという誤解、勘違いが出てきがちになる嫌いもあるのかなど。つまり、そういったことを駆使すると、先生の人間性とか発する言葉とか板書とかそういったものを抜きにして、それを使えば良い授業だという勘違い。これが起きないように、やはり基本は教師なんだというところをこれからも大事にして、これからこの情報化推進事業については進めていただければ</p>

井上総合教育センター 一所長	<p>有難いと思っておりました。これは私の考えなので、もし間違っていればあれなんです。これについては何か教育センターではありますでしょうか。</p> <p>まさに機械は導入することが目的ではなくて、子どもたちがより良い成長を遂げることが一番の目的ですので、各学校の校内研修の支援、教育指導課とともに学校訪問を行っておりますけれども、訪問を行っての指導、校内研修で先生方が力を付けていく、そこが本当に大事なところだと思います。今現在、来年度の研修講座について、どういったところが八戸市の課題になるのか指導課とセンターすべての指導主事が集まって何回か会議を持ちながら、来年度に向けてセンターとして研修講座をどう持っていけばいいのかというところを議論しているところです。子どもたちが本当に毎日楽しく学校に行きたい、授業が楽しい、そういう学校が実現できるように、センターとしても研修講座等で支援して参りたいと考えております。</p>
築瀬委員	<p>はい、よろしく申し上げます。若い先生方というか、ベテランは当たり前ですがどんどん辞めていくんですが、つまり私たちで言えば私たちの先輩が繋いでくれたこと、本当に旧式と言えば旧式なんです、要するに黒板と指示棒の使い方一つによって、動きが変わってくるんだとか、板書の指示の仕方によって子どもが変わってくると。そういったことも、若い頃ベテランの先生方からいっぱい聞かされてきた訳です。つまり、先程も言いましたが、映せばそれで良いんだではなくて、本質的なところを大事にして欲しいと思っているので、あくまでも私の考えではそういった機器というのは補助手段だと思うんです。ですから、本質的なところを見失わないようにして欲しいなと感じているものですから、お話ししました。よろしく願いいたします。</p> <p>最後もう1点ですが、この報告には無いのですが、当初ありました小学校理科支援員のことで、この業務報告にはないんですけども、前にもお尋ねした理科支援についても、非常に現場では理科教育に悩んでいるということでお話しさせていただきました。そしてこの理科支援員の配置によって、非常に心強い、実験の準備から実験の主旨とか意図についても指導してくれると。こういったことで非常に助かっているという声を実際に聞いている訳です。第2四半期の業務報告ですから、この理科支援員の活動状況とか活用状況で、支障のないところでいいですが、これまでで何か特徴的なところがあったでしょうか。</p>
井上総合教育センター 一所長	<p>四半期の報告から落ちておまして、大変申し訳ありませんでした。理科支援員3名ですけども、正確な派遣回数については今手元にございませぬけれども、各学校からの要望に応じて、大きなところでは理科準備室が物凄く綺麗になって、理科の準備等がしっかり行える。要は、薬品とかを購入して次々と新しい</p>

物が入ってくるんですけども、学級担任の先生方が兼務して行っていますので、理科室の掃除だけでも大変で、準備室の整備をするほど先生方は時間が取れない状態です。子どもたちが活動する理科室を綺麗にするために準備室の方にといいことで何十年分もあった物を、本当に綺麗にしてという部分で大きな成果がまず4月に上がっております。

そして、各学校の要望に応じて、退職したベテランの先生方ですので、当然担任の先生との連絡調整ができれば一番素晴らしい支援ができるんですけども、そういうことが難しいことも存じております。したがって、どの先生がどういう段階でどういう困り感で支援をしてきているのか。その辺を察しながら、その学校にできるだけ早い時間に行って、学級の様子を感じて、その時間の準備をする。そういう意味で担任の先生方の負担にならないように配慮しながら、支援していくというところができているのが素晴らしいと思っておりました。

それに加えて、この八戸の自然条件、教科書とのギャップ等を研究しながら、八戸ではどんな教材が相応しいのか。例えば、教科書にはメダカの尾びれの血管を見るような事例が出ておりますけども、八戸市ではメダカよりももっと取扱いがしやすく丈夫なオタマジャクシの血管を見せることによって、子どもたちがメダカほど注意しなくても、雑に扱っても、十分観察した後で返せる。そういう教材であるとか、各市内の校庭にある樹木への名前付け。こういったものは1回行えば向こう10年くらいはそれをそのまま活用していけますので、各学校に行って、これは1回行ってできるということでは無かったので、数回に渡って、また四季を通して継続して支援を行っています。

そういう意味で、学校ではなかなかやりたくてもやれない、そういう細かいところを理科支援員の3人が行っているということで、本当に頭が下がるような働きをしてくださっておりますし、各学校を訪問したときも非常に助かっているという声を各校長先生からいただいております。これも震災対応の緊急雇用の予算を使って今年度1年限りのものですので、是非来年度予算化したいということで、今頑張っていきたいと考えております。

築瀬委員

ありがとうございます。私も聞いていましたが、非常に良いお話を聞きました。私も現場にいたときは、とても準備室にまで手が回らない。薬品とか様々な実験用具があるので、子どもに掃除させるには危ない部分があつて、先生がきちんとやらなければダメな部分があるので、非常に有難いと思います。準備室を整備すればすぐ実験ができるということもあるので、非常に効果的だと思っておりました。

それから八戸という土地にあった授業づくり。社会科ではそういうことがずっと進んできた訳ですが、理科の部分ではこういったところが大事だなと思って聞いておりました。そうすれば、子どもたちが身近に理科というものを感じるよう



<p>武輪委員長</p>	<p>になる。それが理科離れを防ぐということになると思うので、非常に大事な取組であると思います。</p> <p>最後にお聞きしようと思ったことを所長さんが答えてくださったので、有難いなと思いました。というのは、4月にお聞きしたときに1年限りだと聞いて、せっかく良いことなのと思っていたんです。ですから、先程も言ったように、一番説得力があるのは現場の声、そして先生方の声もそうですが、子どもたちの声をもっと拾ってあげて、それをまとめて説得材料にさせていただきたいと思っています。是非、配置について頑張ってくださいれば有難いと思っております。よろしくをお願いします。</p> <p>今、理科支援のお話がありましたが、私も先日訪問をさせていただいた学校で、校長先生から理科支援の方のことについてお話がありました。大変役立っているということで、先生方の多忙なところの手伝いもそうですが、子どもにも興味・関心を持たせるという部分で、やはり先生方も得手不得手がございまして、その部分を補っていただいて有難いというお話を私も直接伺いましたので、今のお話を聞いておりました同感でございます。よろしくお願いたします。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>3ページになりますけれども、学校教育課の2番目、八戸市奨学金のことに関連してなんですけれども、今高校に入学している生徒たちが経済的に苦しいと。例えば進学を考えていても経費等を考えると断念せざるを得ないという実態がございまして。そういう中で質問ですが、高校予約採用、それから専修学校の在学採用、その部分が募集者数に対して採用者数が少ない。実態は非常に苦しい子どもたちが多いわけなんですけれども、この辺がうまく活用されてないのかなと、この数値を見て思ったんですけれども、この募集者数に対して採用者数が、特に高校、専修学校のところが少なくなっているというのは、何か理由とかございましてしょうか。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>それでは奨学金についてお答えします。今現在、市で行っている奨学金の応募区分ですけれども、一般奨学金と予約奨学金という2つがあります。予約制の奨学金は平成23年度から導入したものです。一般と予約の違いというのは、予約は前の年度に決定して4月から支給できると。一般については5～6月ぐらいからの支給ということで、一番お金が必要となる4月5月にはなかなかその部分が難しい状況があるということで、今現在は予約制の奨学金が大変好評です。よって人数的には、平成23年度から予約制の奨学金が入ってきた訳ですが、全体の人数は増加してきていると思います。ただ増加した分が予約に流れているということで、受け止めていただければいいかなと思っておりました。</p> <p>あと専修の部分は、ここは専修学校に進む方々の状況も関係しているのかなと</p>

<p>八木田学校教育課 学務GL</p>	<p>ということで、なかなかここは人数が増えていないということでした。</p> <p>全体の予算も総枠が決まっているんですけども、八戸市の奨学金の場合は、できるだけ多くの方々に利用していただくというスタンスで貸付をしておりますので、条件はあるものの、応募があればできるだけ多くの方々に貸付をするというスタンスで今現在も行っております。</p> <p>担当しております学務グループでございます。高等学校の予約制、専修学校の在学採用、これはかつてございませでした。市長のマニフェストにありましたように、奨学金の拡充ということで、専修学校は予約制、高等学校の予約採用は手元に資料がありませんが、もっと少なかった訳です。</p> <p>実施したところ、専修学校の予約制は応募がゼロでございました。予約制といいますのは、いわゆる高校生で専修学校への応募がなかった訳です。逆に在学生の方からどうして在学生は無いのでしょうかというのがこれまでもあった訳でした。</p> <p>そして、高等学校の方は初年度採用枠を超過する応募がありまして、非常に反響が大きかった。しかしながら、その当時は定員を超えたものですから、6月に募集を開始するんですけども、秋に県の方で高等学校の予約制があるということで、そちらの方をご紹介したという経緯がありました。それを踏まえて、高等学校の予約制は人数を増やしましたし、更に専修学校の方も実態に合わせて、在学採用ということで13人という枠を設けさせていただいたという経緯があります。</p> <p>今この数字だけを見ると達していないという見方もあるんですけども、逆に枠は十分に確保して受けられるようにしたということで我々の方では捉えております。もちろん周知は、広報、ホームページ等でこれからももっとやっていかなければならないというのは、私たちの方でも努めていかなければならないと思っております。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>はい。状況に対応しながら増加して対応していただいているということが理解できましたので、ありがとうございました。これからも、苦しい方も結構いらっしゃるのでは、対応をよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>5ページの教育指導課実践支援グループの学校訪問のところに関連して、これは意見・質問ではなくて、委員として始めたばかりの活動の中での感想ということで述べさせていただきます。</p> <p>先日、函南小学校の学校訪問に同行させていただきました。非常に新鮮で良いなという思いを持ちながら、学校訪問を終えさせていただきました。どういうことかと言いますと、そこに表記されておりますように、「わかった！できた！が実感できる授業づくり」ということで、確か課題解決型学習と言えいいいんでは</p>

ようか、そういう形で分からない子どもに対して分かった子がグループ編成の中で理解できてない子どもに教えると。そしてその子が納得できたというところを確認しながら進めていく作業。決して先生の一方的な授業ではなくて、しかも子どもが主体で、分かった子が理解できていない子に教えるというスタイルで進めていたのですが、この中であるグループの子に男の子が説明して、終わって頷いていたんですが「納得できた？」と聞いたら「分かりました」と。あ、これだなと思ったんですね。そういうことで「わかった！できた！」と、これが一つの授業展開の中でなされているなという思いをいたしました。

ずっと高校生が多かったものですから、その体験の中で、どうしても高校生になると授業展開の中でなかなか発言しなくなると。なんでこの子どもたちがそのまま高校生になっても、こういう活動ができないのだろうかという思いを持ちました。高校生に対しては、特に思考力が劣っているとか表現力が劣っているというようなことがあります、まず、「なぜ力」「とは力」をつけよう、「なぜ」「何々とは何なんだ」まずこれを持とうと。そして、それに対してここで言う「わかった！できた！」これが加わってくれば、おそらく自己教育力と言いますか、自分で自分を高めていく、そういう教育力がついてくるんだと思うんです。まず自己教育力をつけなさい、つけようよ、ということで話をしてきたんですが、その原点がここにあったなという思いで、その授業を参観させていただきました。本当に参考になって良かったです。

それからもう1点、これは学校訪問ではないんですけども、小学校の教員対象の研究協議会に参加させていただきました。そのときに事前に指導案をいただいていたので、それを見て、非常に興味を持った授業がございました。それは柏崎小学校で行われた図画工作の授業でした。内容としては、校舎の中で自分の好きな場所を見つけましょう。そこで、その場所に相応しい人形を紙人形で作って置きましょうと。そしてそれを写真に撮って、その公開授業のときは皆で撮ったその写真をお互いに見合いながら公表するという展開でした。こういう発想の授業もできるんだなという思いでその授業を見てきました。というのは、自分の学校のこの場所にこういう人が居たらいいなという、まずその発想です。そしてどういう人形を作ればこの場所に合うんだろう、この学校に相応しいんだろう、そういう授業展開をやっていたと。そして最後の授業のときには、お互いにその持ち寄った写真を見ながら「これいいね」とか「ここがこうなればいいね」という発想をしていました。こういう創造性豊かな授業展開を、小学校の段階でしているんだなということを感じました。

その授業に興味を持ったのは伏線がございまして、東日本大震災の年に退職しましたけれども、少し後ろめたい気持ちもありながら、ずっと長年の夢だったので、観光でイタリアへ行きました。その時にナポリ港からカプリに渡って、青の洞窟とよく言いますが、そこに入るために行ったんですけども、その洞窟に入

	<p>るためには小さな船で入るんですが、波が高くて入れなかったんです。待機になったんです。そしたら、その洞窟に入る絶壁のところに平仮名と漢字で「がんばれ日本。がんばれ東北。」、そして日の丸が掲げてあったんです。小さな船で待機しながら、それが目に入ってきてまして、こんな離れた所でも「がんばれ日本。がんばれ東北。」と、そういう思いの人たちがいるんだと。観光客目当てだということは分かりますけども、それを理解した上でも、こういうふうに日本を見てくれているんだと、有り難いなという思いがありました。</p> <p>その思いがその指導案を見たときに、この子どもたちは、今は学校でのシチュエーションを考えているけども、人形を考えているけれども、将来いろいろなところに出て行ったときにそういう発想のできる子どもたちになっていくのではないかなと。ここに相応しいのは、人形じゃなくて言葉でもいいです、あるいは他のものでも。こういうふうに、この場所にこういうのがあったらいいなということ想像していける子どもたちになるんじゃないのかなと。そういう意味で、非常にその授業に関心があって見させていただきました。そういう意味で、まだ教育委員として初歩段階の感想で申し訳ありませんけれども、本当にいい子どもたちに接しながら、いい形で子どもたちを育てていければというふうに思っています。</p>
武輪委員長	<p>貴重なお話をありがとうございました。他にご質問ございませんでしょうか。</p>
岡本委員	<p>いつも感心することですけれども、例えば図書館、是川縄文館、博物館等々は企画するものがたくさんあって、その中でたくさんの企画を立てられて、市民の皆様がたくさん来ていただくというような主旨で、他の課と違いまして、企画力というのが非常にお仕事の中でも大半を占めていると思います。これは文化的な施設におかれまして、3つの所でテーマを何か決めているとか、そういうことはあるんでしょうかというお尋ねです。集まって今年はこののをやりますよと言うと、例えば是川縄文館でこういうのを今年に企画をするとか、縄文館や博物館などいろいろな展示をするに当たってはかなりの予算をかけてなさると思いますが、それを図書館に今年はこののをやりますよとか、そういうのはやっていらっしゃるのかなという単純な疑問です。</p>
津取場図書館長	<p>図書館、博物館、是川縄文館で、年度の初めに今年はこのふうなという話し合いは特にはやっていないです。</p>
岡本委員	<p>ありがとうございます。</p>
小笠原博物館副館長	<p>例えば博物館と是川縄文館ですけども、今現在、博物館の場合は考古分野です</p>

	<p>けれども通史ということで展示しております。是川縄文館の方は縄文時代の後期・晩期という時期限定で、特化した展示内容で、それに機能的な埋蔵センターがついているということで、そういう環境になりますので、博物館においては特に歴史と民俗を中心に特別展等を考える。是川の方は、縄文時代を中心に考えるという一応住み分けはしています。</p> <p>あとは講演会等々ありますけども、その日程を決める際は是川の担当者と博物館の担当者と連絡し合っ、日程等を調整しております。たまにバッティングする場合もありますけども、それは先生の都合もありますので仕方ないときもあります。それで、今年度失敗したと思ったのは図書館を入れなかったことです。図書館もいろいろな講演会をやっておりますので、今後は、博物館、是川縄文館、図書館で連絡し合っ、日程の調整をしたいと思ひます。調整できないのは仕方ないですが、なるべく調整しながら、市民の方または周辺市町村の興味のある方々が何回も聞けるような環境を作りたいと考えております。</p>
船田社会教育課長	<p>うちの方では市民大学をやっておりますけども、図書館の方をお願いをして、事前にこういう講師が来ますので、講師の紹介コーナーを設けてくださいということで図書館へお願いして企画していただいて、それなりに効果はあるのかなと考えております。</p>
岡本委員	<p>資料を見ておりましたが、例えば調べ学習という言葉であつたりとか、社会教育課の市民大学の方の特集をなさっていたりとか、そういうものが見えるものもあつて、おそらく何かなさっているんだろうなというのが見えることはとても良いことだと思います。教育委員会の横の繋がりというのも、やはりどうしても評価になってきますと、来場者とか来館者ということが目につきやすく、数字で示しやすいことにはなりますが、それで文化的な素養が高まっているのか、それで八戸市の文化度が高いか低いかは決して判断できるものではないと思ひます。同じ委員会の中におりますので、できれば横の繋がりも密にさせていただきながら、私もあまりすぐ行って分かるという状況を置くというのは教育的ではないと、例えば是川縄文館でこれをしているから、図書館に行ったらば探してもせずに目の前にあるというのはあまり良くないと思ひます。調べて「あつた！」と、これに書いてあるかなというほうが望ましいと思ひのですが、やはりある程度のものはあつて、隣と連携しているというようなことや、全体的に連携しているということがとても分かりやすく、行ってみたいという気持ちになるのではないかなと思ひましたので、今後、今おっしゃったように図書館もお入れになってやっていたら、更に企画もいいものができてくるだろうなと思ひました。</p>

<p>澤田次長兼 教育総務課長</p>	<p>各1つずつの講演会の先生方というのは違うんですけども、企画展・特別展につきましては、来年こんなことをやろうということで集まるのではなくて、やはり2～3年、大きければ学芸員が研究して4年というふうな状態で積み上げてくるものですから、その間に情報の共有は十分できています。何故ならば、博物館から物を借りて是川で展示するというのも有り得るので、来年どうしようということに関しましては、もう十分に来年はそれぞれの館でどういうことをするかは情報共有してございます。ただ確かに、図書館はちょっと共有が薄いかなと思います。今回は美術館では今「道」というふうな企画をしておりますけど、博物館では「三陸—豊かな海の歴史と民俗—」という形で復興に向けた特別展を協力して開催しております。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。 では次に、「平成25年度第3四半期の主な事業予定について」委員の皆さんから質問ございましたらお願いいたします。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>質問なんですけれども、6ページにある社会教育課の(5)に岩泉町に何か立てるとのことですが、これは何を立てるのでしょうか。</p>
<p>船田社会教育課長</p>	<p>当市には、いわゆる旧町内名である十三日町、三日町、徒士町とか、いろいろな江戸時代の町名がございますので、その町名をその地区に四角い標柱と言いまして、四角いポールのようなものに「何日町」とか書いて、その謂れとかを説明する標柱というものを毎年1本ずつ立てています。これからあと何十年もかかるんですけど、古くから伝わる町内名を残しておこうということで。今、都市計画で何丁目という町名が多くなっていますので、古い町名や謂れを残そうということで、古い町名の所に1本ずつ毎年立てているということです。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>1ページの教育総務課2番の営繕に関わる部分ですけども、小学校・中学校でトイレの改修建築工事というのがたくさん入っておりますが、ほとんどが機械設備の工事ということになっているようですが、これは単に古くなって改修が必要だということなのか。あるいは、今盛んにトイレというのは学校で言えば生徒が入りやすい、あるいは入って居心地の良いといえますか、色彩を配慮したりいろいろ設備を配慮したりということを含んでの改修ということなんでしょうか。単にもう機械的にダメだからということが主体ということでしょうか。</p>
<p>澤田次長兼 教育総務課長</p>	<p>営繕のところのトイレの改修についてご説明申し上げます。まず、トイレの改修が数多くございますけれども、1つの改修の中でこちらの工事の関係なんですけれども2つに分けられます。建設の部分と機械の部分に分けて発注する、専門</p>

	<p>が違うということです。1つのトイレを新しくするという考え方で見ていただければいいと思います。</p> <p>今年度、異例の14校のトイレ改修ができますけれども、通常は小学校1校、中学校1校というペースで参ったんですが、昨年度の景気対策でやれるということで、やれるのであれば手を挙げて補助金、交付金をいただいてやってくださいということで一気に14校、今大変急いで頑張っているところですけども、14校毎年できる訳ではないです。それにつきましては要望はたくさんあるんですが、やはり建設年度とか体育館と一緒にくっつけているかどうかとか、そういうのを踏まえながら順番にやらせていただいております。要望の強いところとか必要なところをとということで。</p>
大庭委員	<p>生徒の使い勝手とか、そういうところも配慮しながらということですか。</p>
澤田次長兼 教育総務課長	<p>それにつきましては、要望は学校の方から聞いてございますけども、基本的に洋式を進めてございます。和式も1個、やはり使えないと困るということで。違うところにもトイレがあるところでは全部洋式にするところもございますけれども、基本的には洋式に和式が1個というふうなことで改修を進めてございます。</p>
大庭委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
築瀬委員	<p>私は同じようなところについて話しているんですが、3ページの5番6番に関わることで、特別支援教育アシスト事業、スタディサポーター事業というところですが、先程正部家課長さんから努力したいということでお話しいただいたので、そこは本当に頑張っていたきたいと思っているんですが、私も認識不足だったんですが、先日担当の指導主事の方からお聞きしたら、先程の専門指導員とは別に、言葉の教室が小学校3校にある訳ですが、そこに3人の相談員を配置させていただいているということをお聞きしました。それは市民健康部の健康増進課の方から配置していただいているということで、人選等の関連とか様々なことについては教育分野と連携しているということをお話を聞きましたけれども、このように市庁部局のほうと密接に関連して、お互いにお金を出し合うということはないでしょうか、市庁部局の方から出していただくことが多いかと思いますが、そういったことでやはり教育の分野だけではなくて、いろいろな施設関係で言えば、道路とか建設部の方と連携しているわけですが、こういった特別支援関係でも健康増進課と連携して3人の相談員を配置していると。そのおかげで、実態は幼児の相談件数が非常に多くなっている訳なんです。私が現場にいたときからそうだったんですが、ますます多くなっているとお聞きしまして、その幼児の</p>

	<p>相談の対応が非常に苦しくなっていると。言葉の教室には加配もあるのですが、それだけでは間に合わないということで今のようなことができたということで、非常に今後の教育行政に参考になる取組だと思っているので、今後とも教育委員会内の横の繋がりだけではなくて、市庁部局との繋がりを大事にして、是非続けていていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それから二つ目は4ページになりますが、これも今年ずっと続けてお聞きしているところですが、8番の地域密着型教育推進事業です。先程の報告の中では新たに今年度の新規推進校のうち3校が、第2四半期に立ち上がったという報告がありました。そうすれば残りは何校なのか確認をしたいと思ひておりました。広報はちのへ11月号の最新版にも大きく地域密着型教育が取り上げられて、新規推進校の名前まで出ている訳です。そうすると、地域に住んでいる方が、私たちはこの学校だけでも何もやってないとか、あるいはやっているとかということも話題に上がるのではないかと思ひています。ですので、3校が立ち上がったということですが、その後10月に入って立ち上がったところがあるのか、それともまだ何校残っているのか、それを先にお聞きしたいと思ひます。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>残りはあと3校となっております。具体的には市川中学校、田代小・中学校、湊小・中学校です。やはり中学校区として立ち上げるところ、あるいは今申し上げた市川中のように小学校と中学校が別になっているところがございまして、残り3つとなります。全部で72小中学校がございまして、そこまできております。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>はい、ありがとうございました。少し安心しました。12月までに支援をして立ち上げさせたいということがここで述べられている訳です。ですから、12月までとのんびりしていていいのかなと一瞬思ったものですから。そうすれば、もう一つお聞きしたいのは、この3校については大きな理由というのは先程の理由でしょうか。ジョイントも含めて小・中学校の連携を考えて進めているのが湊小・中と田代小・中で、市川中は独自の形を考えているので、少し遅れていると考えてよろしいのでしょうか。</p>
<p>嘉瀬教育指導課 実践支援GL</p>	<p>教育指導課実践支援グループです。市川中学校につきましては、学区が接続する小学校が大変多くて、そちらの方が立ち上がったから、委員があまり重複しないようにと配慮しているところです。準備の段階の打ち合わせは済んでおまして、あとは日程が決まればというところです。湊小・中学校については打ち合わせが済みまして、11月29日に協議会を立ち上げる予定になっております。田代小・中学校につきましては、以前より地域密着の会合がございまして、それからの移行ということで、先日も校長先生とお話ししたんですが、間もなく立ち上げる予定でおります。</p>



<p>築瀬委員</p>	<p>ありがとうございました。4月に話したとおり、私は八戸市の義務教育の象徴であり、誇りだと思っているんです。ですから、こういったことに対して学校も教員も保護者も地域住民もちろん子どもたちも、そういう事業を八戸で行うということは誇りなんだというふうに思って進めてければ有難いと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>最後三つ目に質問したいのは、8ページの総合教育センターの7番、学校図書館ネットワーク事業ですが、この一つ目のところに図書館ボランティアの導入を推進するとあります。ここについては、以前は学校図書館の支援員さんが配置されていたりして、非常に学校でも活用度が高かったのですが、これはそういう人的配置ではなくて純然たるボランティアという意味でしょうか。まず、それを確認したいです。</p>
<p>井上総合教育センター所長</p>	<p>この部分につきましては、指導課と協力しながら進めているところで、センターの方は学校図書館のネットワークをしっかりと構築するという部分と、センターに図書室があって、学校ではなかなか購入できない高価な、例えば大型絵本であるとか一時期しか使わないもの、そういったものを整備して、宅配を使って学校の方に図書を配置するといったところが仕事になっております。図書ボランティアについては指導課のほうから。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>人的配置ではなくて、純然たるボランティア活動ということで理解していいですか。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>はい。あくまでも学校単位ということで。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>はい、分かりました。今お話ししたように、以前は支援員という形で人的配置がなされた訳なんですね。非常に専門的な力量を持った方が配置されて、いわゆる今のデータベース化・ネットワークシステム化で非常に活躍していただいた。そしてそのことによって、PTAの図書委員会とかそういう方々が支援員の方から聞いて、その後を引き継いで図書館の整備をしているといったところもある訳です。もし本当に純然たるボランティアであれば、今のような人的配置が無いのであれば、先程から言っている地域密着型教育を進める中で、ここをリンクさせて、図書館ボランティアの必要性を説いて、やはり地域学校連携協議会の中でも、ほとんどとは言いませんが、図書館部会とか専門部会なんかで作っているところが多い訳ですよ。ですからそういったところでの連携とか、各学校のPTAの図書委員会とか教養委員会とか、そういうところでもボランティアをやっていますし、先進校と呼ばれているところもあるので、そういったものを紹介しながら、</p>

<p>岡本委員</p>	<p>地域密着型教育を進める上でも、担当者の方からそういったものを是非活用して、図書館ボランティアも推進して欲しい。ここに推進するという方針が載っているの、そういう方針が載ったら、具体的にそういったところを活用して進めていただければ有難いと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>同じく総合教育センターの8ページですけれども、4番のところに「情報モラル授業アップ研修講座」の開催ということで、その後の文章なんですけれども、「今後、小・中学校の現場でさらに緊急性・必要性」という「緊急性」という言葉がありまして、私はそれに少し引かかるんですけれども、それと合わせまして、今月小・中学校のPTAの代表の皆様と教育委員と委員会との話し合いの中で、このLINE（ライン）についての話題も出ました。LINEについてはいろいろなことを保護者の皆様も感じていらっしゃるし、親だけでは少し難しい点もいろいろな話の中から話題に出ました。私もそれに対して興味関心があるので、他都市がどのような取組をしているのか、それをネットで検索する私も嫌なんですけれども、それを検索してみましたら、例えば京都などは平成17年度にすでにその情報モラルということで、教育委員会がそういうものに対して出していた文書もございましたし、いろいろな市でそのような取組があったんですが、この緊急性ということに関して、何か委員会として課として考えていることがあれば教えていただきたいと思えます。</p>
<p>井上総合教育センター 一所長</p>	<p>今お話がありましたように、この情報モラル教育、モラルとついているので道徳性の部分が捉えられがちですが、ここのところには子どもたちのそういう情報機器に対する良い面と悪い面の理解、そういったものもしっかり進めていかなければならないということで、大きくそういう心の部分と自分の技能の部分という大きなものがございます。八戸市では教科等研究員の研究員制度の中で、まず学校でどのように取り組んだらいいかということ調査研究して、学校のほうにそういう情報を下ろしているという部分があるんですが、今、岡本委員さんからもあったように、LINE等は4月と今現在のわずか半年の間に大きく変わってきたという現状がありますので、教育指導課の方と連携を取りながら、そういったところをどう進めればいいのかということで、今現状を研究しているところです。</p> <p>これも震災対応事業なんです、職安の方に情報教育アドバイザーの募集を10名かけていたところが、後期の情報教育アドバイザーが9名でスタートしております。あと1名空いているので、今募集の方に教員免許ということを付け加えながら募集をかけて、応募した人があれば、まず1ヶ月程度現状について調査研究をセンターでしていただいて、それを今年度中に各学校の方へ下ろしていきたいと考えております。ただ人材によりますので、職安に募集をかけてはおりますけれども、良い人が応募してくれるかということで、もしあれば本当にそういった</p>

<p>正部家教育指導課長</p>	<p>意味でしっかりした資料を作って学校に下ろすことができるなど考えております。</p> <p>補足いたしますけれども、子どもたちが様々な事件・事故に巻き込まれる危険性・緊急性ということで書いておりますけれども、レベルを3つに考えまして、教員への研修レベル、それから保護者への周知レベル、あるいは児童・生徒への指導ということで進めて参りますけれども、その中にはやはり高い専門性を持った外部講師の派遣ということも、授業あるいは参観日等ということで、そういった辺りを含めまして行っていきたいと思っております。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>今の情報モラルの件で、だいたい高校に入学の段階で、保護者も了解の上で、携帯電話や今はやりのものを買って貰うというケースが多いと思います。そして高校に入ってから、小・中よりもおそらく現実的には非常に深刻な問題を抱えております。例えば、金銭が絡む問題、あるいは何かで非社会的な行動に走ってしまう問題、いろいろあります。参考としてですけれども、高校の場合、これは効果的だと思ったのは、入学式の後あるいは物品を買うときに保護者だけ残ってもらって、携帯を販売している会社、例えばドコモとかいろいろありますが、ある1社のところから来ていただいて、もう具体的な現実的な話をさせていただきました。お金がこのぐらいかかります。実際こういう犯罪があります。こういう形で巻き込まれます。そういう売っている側から保護者へ警報を発していただくというふうなことで、そういう説明会を持ったんですけれども、これは学校の先生が説明するよりも、ずっと保護者にとっては効果的であったと思います。そういう依頼をすれば来てくれますので、そういう方の直接的な具体的な話を保護者あるいは中学生に話ししていただくというのも、一つの警報を発する機会になるのかな、そういう活用もあるなというふうに思ったことがございましたので参考にお話させていただきました。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>この緊急性という言葉を大事にいただきまして、スピードが追いつかないのは大人の方ですので、やはり小・中学生は必要はないと、私自身はそう思っておりますけれども、そういうことも含めて、でも環境がそれを許しておりませんので、ここは迅速に私たち自身も研究をしながら、ここの緊急性を良く見ていきたいと思っております。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>それでは、次に移りたいと思います。「平成25年度蘭州市青少年友好交流団の来八について」報告を受けることとします。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>(資料「平成25年度蘭州市青少年友好交流団の来八について」に基づき説明)</p>

武輪委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。
武輪委員長	長い間この交流はされておりますが、是非また中国側からも、国と国との問題ではございますけれども、個々となれば同じ人間として交流を持てる時期がまた早く復活していただければいいなというふうに私は願っております。
武輪委員長	それでは次に「南郷歴史民俗資料館の展示リニューアルに伴う臨時休館について」報告を受けることとします。
小笠原博物館副館長	(資料「南郷歴史民俗資料館の展示リニューアルに伴う臨時休館について」に基づき説明)
武輪委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。  (質疑なし)
武輪委員長	その他、事務局から報告事項はありますか。
武輪委員長	最後にその他ですが、委員の皆様方から何かございますでしょうか。
大庭委員	初めてなので、いろいろ緊張して参りました。ただ委員となった思いということでお伝えしたいことがございます。何かと言いますと、3年前、退職する年の2月末の全国版の新聞記事で、高校生の自己肯定感を各国比較したものがございました。あくまでも平均ですけども、アメリカ・中国が90%、これは理解できます。それから韓国が75%。それに対して日本の高校生の自己肯定感が36%でした。その数値を見た時に愕然としまして、自分は何をやってきたんだろうという思いがございました。そして今回この教育委員をお引き受けするに当たって、当市の場合はどうなんだろうということで、いただいた資料を見ていましたら、確か八戸市の場合、自尊感情、うろ覚えですみませんが間違いがなければ小学校の場合は65%ぐらい。そして中学生になったら、10%ぐらい減っていたのかなという記憶がございます。それを見て幾分ほっとしました。あくまでも平均ですけども、高校生の36%に対して当市の小学生はだいたい65%ぐらい、中学生は55%ぐらいというふうに考えると、高校生と比較すると良かったなと。ただこの数値がもっともっと高くなっていくようにしていかなければならないのかなという思いがございます。そういう生徒の自尊感情・自己肯定感、これをどう育てていくのか。そういうふうなことで関わっていければ良いかなと、あるいはそういう意味でお

武輪委員長	<p>願い等もできる場所があれば具体的な形でお願いをしたいと考えております。</p> <p>はい、ありがとうございました。他によろしいでしょうか。</p> <p>それではこれを持ちまして、平成25年10月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p>(午前 11 時 32 分終了)</p>
-------	--